

学級活動

適応と成長及び健康安全

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立真亀小学校	校長氏名	三吉 学	生徒指導主事氏名	長尾 圭一郎
-----	-----------	------	------	----------	--------

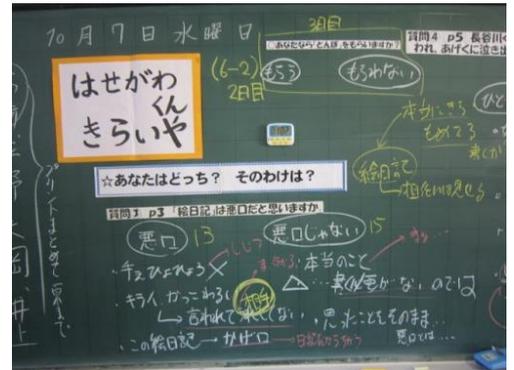
取組事例名 『倉田さんを迎えて～人と違っていることは恥ずかしくない～』（6年生）

取組のねらい 「キーワード『人と違っていることは恥ずかしくない』」

障害により手が使えないため、生活の全般を足で行う倉田さんとの出会いや倉田さん本人との身体を使ったふれ合い活動の中で、「心のバリアフリー」に繋がることを目指す。

取組の具体的内容 「キーワード『であい』『ふれあい』『わかりあい』」

- ① 「はせがわくんきらいや」（道徳オリジナル教材）を3～4時間学習し、人間とは何か、自分の中の「みんな」に障害をもった人は入っているのか、などを考える。また、クラスにもいる、いわゆる「しんどい」子、その子を無視しない、放っておかないことの「しんどさ」とともに、それを超えた「優しさ」、そして「優しさ」とは何か？を子どもたちと一緒に考える。
- ② 倉田さんを迎えるにあたって、どんなレクリエーションを行うか考え、子ども自身で企画・運営できるようにしておく。
- ③ 倉田さんを迎えて～大運動会～
・始めの言葉 ・ゲーム ・結果発表 ・終わりの言葉
- ④ 倉田さんの講演
～人と違っていることは恥ずかしくない～
- ⑤ 倉田さんと給食
- ⑥ 実際に倉田さんの改造車やその運転を見る
- ⑦ 倉田さんのドキュメンタリーDVDを見る
- ⑧ 資料「倉田さんを迎えて」（プロフィール・生き方・メッセージなど）を読んで、倉田さんに手紙を書く。
- ⑨ クラス実態に合わせて、必要と思える事後指導等を行う。



取組の課題・創意工夫 「キーワード『驚きを伴う感動体験』」

- ① この本（はせがわくんきらいや）は、「同情」「あわれみ」をきっぱりと否定し、「うわつつらの優しさ」を描かず、きれいごとで収めていない。その「丸ごとの人間の本音」の出会いと関わりの中から、「人間の優しさ」とは何かを考えさせる。また、子どもたちは「あなたはどっち？」というめあての中で主題に迫っていき、モラルジレンマにより、葛藤し、自己矛盾する自分に気づいていく。
 - ② 倉田さんの写真やプロフィール、昨年の授業風景などから倉田さんの人物像に触れ、倉田さんも含めて、参加するみんなが楽しめるレクリエーションなどを考えて、企画・運営できるように準備を進めていく。その際、偏見や差別につながらないように配慮しつつ、子ども自身が持つ発想を大切にしてゲーム等を企画運営できるよう支援していく。
 - ③ とにかく、ふれ合える、話せる雰囲気作りに努める。また、少しでも、倉田さんと関わられるようにフォローを行う。
・「ルール」がしっかり分かるように、説明のボードなどを活用するなど工夫させる。
 - ④ 倉田さんの大切な言葉などを黒板に書き込みながら、子どもたちの思考が深まるよう心がける。
・子どもの率直な意見が出やすいように配慮する。
 - ⑤ 倉田さんにとって当たり前の「足」での食事を見て、感じながら、楽しく会食ができるようにする。
 - ⑥ 実際に足で運転する改造車を見たり、動く姿を見ることで驚きを伴う体験活動とする。
 - ⑦ 分かりにくい場面などは、補足しながらDVDを鑑賞し、倉田さんの生き方・メッセージに迫る。
 - ⑧ 倉田さんの「であい」「ふれあい」「わかりあい」の大切さ、そして、「どうせ〇〇を、、、せつかく〇〇に変える」というメッセージについて、考えを深める。
- ▲ ただし、クラスの中のしんどい児童や立場の弱い児童に対して、未だに傷つく発言や行動をしたり、全然そのことに気づかなかつたり、まだまだ、「倉田さんと学んできた思いやりの心」を理解しているとは思えない。引き続き、さまざまな教育活動の中で、人間理解をより深め、共感的理解能力を培っていきたい。また、生徒指導規程を改訂し修学旅行等で徹底してきた「みそあじ」（みだしなみ、そうじ、あいさつ、じかん）の指導により、服装の乱れはかなり改善されてきたが、まだ、一部の児童や親に徹底されていない部分もある。卒業式に向けてもう一歩、頑張らせていきたい。



取組の成果（効果） 「キーワード『どうせ〇〇 → せっかく〇〇へ』」

自尊感情が低く、すぐに「どうせ、、、」と言う傾向の児童が多く、高学年になるにつれ、問題行動を起こしたり、無気力になったりしている児童も少なくない。もともと倉田さん自身も自らの「障害」というものを受け入れきれず、「どうせ障害者だから、、、」と高等部くらいまでは、何でも諦めていたが、様々な「であい」「ふれあい」「わかりあい」の中で、少しずつ自分を受け入れていき、今では、「どうせ障害者だから」でなく、「せっかく障害者に産まれたのだから」と変わっていったと話される。そして、やたらと他人の目を気にする児童たちに「人と違っていることを恥ずかしがらないで」と力強いメッセージを送ってくれ、そのことでとても勇気が出たとたくさんの児童が感想や手紙等で述べている。

また、児童自らで様々なコーナーを企画運営することで楽しみながら「ルール作りの大切さ」を知り、規範意識の向上に役立っていると考えられる。さらに、倉田さん（障害者）が入ることで「みんな」を考え直したり、「他の身体の不自由な人や妊婦のお母さんも参加できるようにするには」という発言が出るなど、発言やゲーム作り、ルール作りの中に「思いやりの心」が多々見られた。

今後の展開 「キーワード『あと一步踏み出して卒業』」

- ・ 道徳授業「思春期～大人へ 考えておきたいこと」・・・思春期とは？ 思春期で学ぶべきこと
「秘密の友だち（賞賛）」＋アドラー心理学入門（他人でなく、自分を変える意味）

上記を通して、思春期で学ぶべきこと（仲間と仲良く＋孤独を楽しむ）や自分を変えることで見えてくる景色や幸せなどを共に考えていく。

- ・ 縦割りドッチボール大会（縦割り班）、キラキラ大作戦（社会奉仕・清掃活動）、
落合中出前合唱（中学生への憧れ・尊敬ほか）、「6年生を送る会」（縦割り班・6年生への憧れ・感謝）

上記を通して、自分以外にも、憧れてくれている後輩やかっこいい先輩、地域の方々などにもう一度気づき、感謝をもち卒業できるようにさせていく。

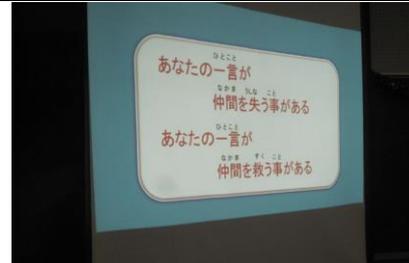
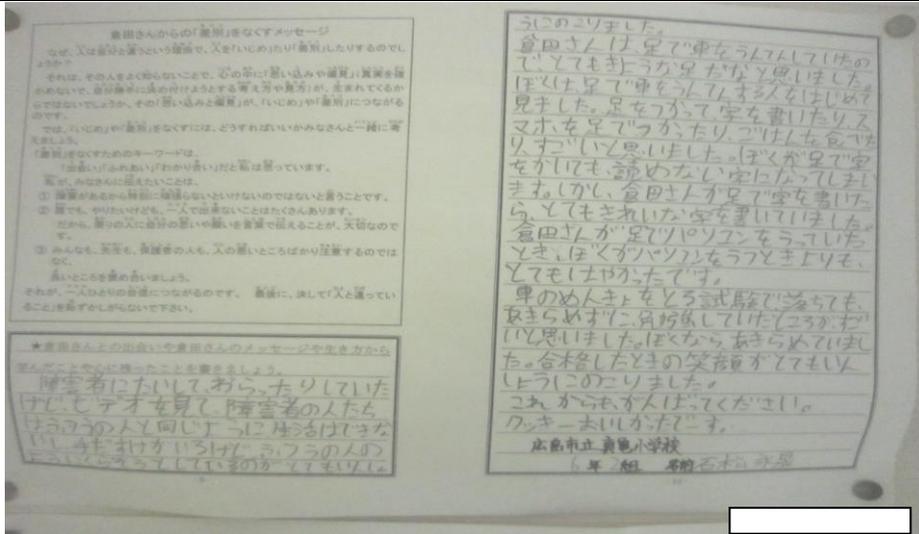
- ・ 卒業式（規範意識）

しっかり卒業式で「感謝」とともに「立派な6年生」を見せることにより、後輩の規範意識の向上に繋げていく。



他校へのアドバイス 「キーワード『たまにはルールを引きすぎない時間を』」

現代の子ども達は、子ども同士で何かを企画したり、自由に発想したり、このような時間がない中で育っていると考えられるとともに、効率化や目に見える成果ばかりに視点がいきがちである。それ故、本校でも学級活動などの企画をさせると当初は、周りからみると、とても手を差しのべたくなるような状況が起こる。しかし、その様な状況でも、子どもたち自身は楽しそうな笑顔であり、そこを乗り越え、様々な企画の会のレベルも少しずつ向上していく。子ども達に「感動を伴う体験活動」を保障し、「たまには、ルールを引きすぎない時間」を確保できる余裕をもって欲しいと願う。



平成27年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	大竹市立大竹小学校	校長氏名	石井 憲幸	生徒指導主事氏名	箱田 知子
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『スタートウィーク』

取組のねらい『キーワード 自己指導力の育成』

- ・ 学校生活のルールを確認し、気持ちよく集団生活ができるようにする。
- ・ レベルアップしながら達成感をもてるようにする。

取組の具体的内容『キーワード 当たり前のことが当たり前できるように』

- 学校全体で各学期初めや中間に取り組む。
 - ・ 気持ちのよい返事をする。
 - ・ 3つの「あ」に気がつけたあいさつをする。 … 明るい声で、相手を見て、頭を下げる
 - ・ 丁寧な言葉遣い
 - ・ 正しい姿勢「ピン・ペタ・ゲー」
 - ・ だまりんこタイムの設定
 - ・ 給食指導 … 時間を守って、残さず食べる。
 - ・ 靴箱の使い方
 - ・ 掃除の仕方 … 無言掃除、時間いっぱい、気づき掃除
 - ・ ロッカーの使い方
 - ・ お道具箱、筆箱、下敷きの使い方
- 始業式後に生徒指導主事が話をする。
- 各学級、各児童が自己評価を行い、次の取組の目標の参考にする。

取組の課題・創意工夫『キーワード 新しい自分への挑戦』

〈課題〉

- 「できた」という基準が教職員間、児童間で共通のものになりきっていない。
- 目標を達成するための具体的な指導方法が確立されていない。
- マンネリ化してレベルアップできないまま取組期間が終わり、十分な達成感ややりきった感に至っていない。

〈創意工夫〉

- 目標に対する評価の基準を明確にし、重点目標を決めて取り組む。
- 具体的に目標の基準を視覚化して示す。
- 効果的な指導方法を交流する。
- 始業式や終業式の後には、必ず生徒指導に関する話の中でこれから取り組むことについて話したり、取り組んだことについて評価したりした。



お手本となる写真を、教室や児童玄関に掲示した。
低学年は「トン・スー」と言いながら揃えさせている。

ある学年は、学校の重点目標の1つの
挨拶を学年の重点目標とし、学年独自の取
組や評価方法を考え、取り組んだ。



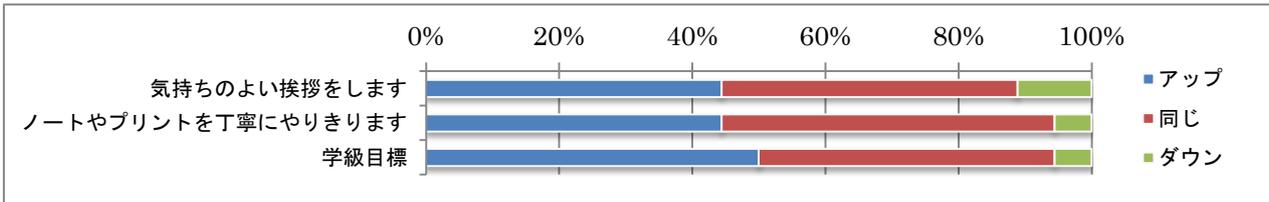
- 児童玄関に各学級の重点目標を掲示し、児童が登校したら意識をもって取り組めるようにした。また、他の学級の児童や担任以外からも評価しやすいようにした。
- 学級通信等で保護者に取り組んでいることを伝え、家での声かけなど協力を依頼した。

学校全体での重点目標も掲示



取組の成果（効果）『キーワード みんなで伸びる』

- ほとんどの学級で肯定的評価が多くなった。



- 重点目標や基準を明確に設定したことで、教師も指導しやすく児童も意欲を持って取り組むことができた。
- 重点目標に取り組むことで、その他のこともがんばろうという気持ちももてた。
- 評価をシールなどで「見える化」したり、数値を示したりした。
- どうすれば目標を達成できるか意見交流の場を設定した。
- 基準が明確になったため自己評価が厳しくなり、評価が下がったところもあったが、教師との評価が一致するようになった。以前は、教師と児童の評価に差があった。
- 学級通信等で取り組んだ結果や子どもたちの様子、今後の指導について伝え、保護者との連携を図った。
- 児童の感想（3学期のレベルアップウィーク）
 - ・ みんながちゃんとしていたので、自分もがんばろうと思って取り組みました。
 - ・ ろうかを走らずにしずかに歩けたけど、右側を歩いていませんでした。だから今度からはレベルアップしていき高めて、右をしっかりしずかに走らずに歩けたらいいなと思います。気をつけます。
 - ・ ぼくは、ろう下をしずかに右がわを歩くことができたので、これからもつづけていきたいです。
 - ・ ろう下をしずかに歩くもくひょうと、3つのあいさつはできていたけれど、そうじの時は、ちゃんとできなかつたから、これからだまってそうじをがんばりたいと思います。
 - ・ あいさつやノートやプリントをやりきってきれいに書いていたけど、これからはもっと美しいノートにしたいです。
 - ・ ていねいな言葉づかいに気をつけました。◎になったときは、うれしかったです。
 - ・ 最後までやりきることは難しかったです。今度からは当たり前のようにできたいです。

今後の展開『キーワード さらにみんなで伸びる』

- ウィーク期間中だけでなく、「いつでもどこでも何度でも」指導していく意識を全職員がもてるための方策を、生徒指導部会や企画運営委員会で話し合っていく。
- 目標の重点化、基準の明確化、視覚支援を取り入れていく。

他校へのアドバイス『キーワード いつでもどこでも何度でも』

- 率先垂範とどの職員も統一した指導ができるようにすれば、児童も戸惑うことなく、不満をもつことなく、学校生活を過ごせると思う。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立因島南小学校	校長氏名	村上 みどり	生徒指導主事氏名	兼田 和佳
取組事例名 『係活動と連動したはきもの揃えの取組』					
取組のねらい『キーワード 伝統の創造』					
<ul style="list-style-type: none"> ・新設校として指導の基準を全職員で共通認識し、学校の伝統を創造する。 ・学級や学校の生活の充実と向上を図り、健全な生活態度を身に付けるために、身の回りの問題を他の児童と協力して問題を解決する。 					
取組の具体的内容『キーワード 因島南小学校「4つのきまり」（「はきもの揃え」）の具現化』					
<ul style="list-style-type: none"> ・因島南小学校の「4つきまり」（「朝の100点」・「無言行動」・「体をとめて話を聞く」・「はきものを揃える」）を守らせることで、児童の安全を守ると共に、社会性を身に付けさせる。規範意識を醸成する。 ・基準（「因島南小のはきもの揃え」に則る）を明確にし、自己管理能力を育てる。 ・児童会と学級活動を連動させ、自治能力・自己指導力を育てる一助とする。 					
取組の課題・創意工夫『キーワード 児童の意識の高揚と評価』					
<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態を把握し、克服課題を明確にする。また、課題解決のための取組の存在意義を共通認識する。 ・基準とゴールイメージを明確にする。（掲示物による「見える化」） ・児童会とタイアップし、児童と課題を共有する。各学級で課題解決のための方策を考えさせる。 ・「はきもの揃え係」を全学級に位置付け、点検（実態の把握）・報告・課題解決のための話し合い活動を展開する。 ・教職員（各担任及び生徒指導主事）が必ず点検し、校内放送で評価する。 					
取組の成果（効果）『キーワード 「揃える心地よさ」の体感』					
<ul style="list-style-type: none"> ・はきものを揃える児童が増えた。 ・はきものを揃えることによって、「揃える心地よさ」を体感する児童が増えた。 ・一人一人の児童が活躍できる場を設定することによって、話し合いに進んで関わろうとする児童が増えた。また、実践においても創意工夫したり、協力したりする姿が見られるようになってきた。 					
今後の展開『キーワード 指導と評価の一体化』					
<ul style="list-style-type: none"> ・教師による一層の共感的、受容的な評価の実施と評価と一体となった指導を継続し、成果を積み上げていく。 ・児童自らが創意工夫できるよう、指導が適切であったかを評価し、指導方法の工夫改善を図る。 					
他校へのアドバイス『キーワード 共有化』					
<ul style="list-style-type: none"> ・全職員による課題（取組の存在意義を含む）の共有化と児童との取組の方法の共通理解は取組を展開するうえで必要不可欠である。 					

【児童と共有するための配布文書】

【基準の統一・見える化】

いんのしまみなみしょう
「因島南小 4つのきまり」(児童周知用)
 因島南小学校には4つのきまりがあります。一人一人がきちんときまりを守ることに
 より、安全で生き生きと学び合える学校づくりを目指していきましよう。

「因島南小 4つのきまり」を守って楽しい学校生活

① 朝の100点

- 制服をかぶる。
- 名札をつける。
- 第一ボタンをとめる。
- はきものをきちんとはく。
- シャツを入れ、髪を整える。

② 無言行動をする。

- 無言で掃除をする。
- 教室を移動する時には無言で移動する。(無言移動)
- 集会等は無言で集合する。(無言集合)

③ 体をとめて話を聞く。

- 体をとめて聞く。
- 相手の方を見て聞く。
- 相手の話を最後まで聞く。

④ はきものをそろえる。

- 運動靴をそろえる。(「因島南小のくつそろえ」を参考に)
- トイレのスリッパをそろえる。

【先生たちががんばること】

みなさんが守ることができるようになるために先生たちは次のことをがんばります。

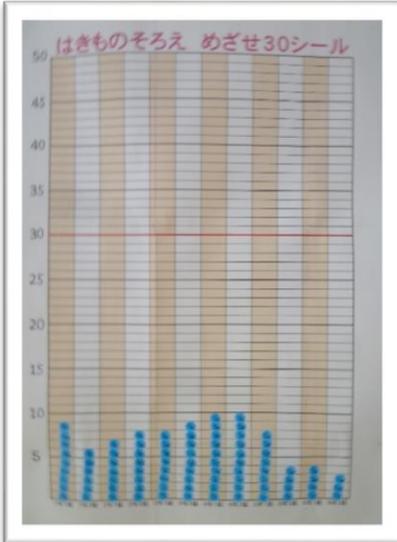
- 「朝の100点」を朝の会で調べます。シャツが入っていない人がいたら、入れるまで待ちます。
- 無言行動ができない時は、できるだけ「やり直し」をします。
- 休憩タイムを大切に、体をとめることができるようにします。
- トイレのスリッパをそろえている人を負付けたら、「ありがとう」とお礼を言います。



【目標の共有と評価】

【各学級の話し合い活動】

【はきもの揃えの現状】



【はきもの揃え係による点検・はきものを揃える児童】



平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	庄原市立庄原小学校	校長氏名	廣澤 伸高	生徒指導主事氏名	坂田 雅則
取組事例名 『善く生きる認定』					
取組のねらい『キーワード 規範意識・自己肯定感・努力』					
○規範意識を身に付けるとともに、人のために行動することで自己肯定感や自尊感情を高める。					
○目標や夢に向かって努力しようとする心情を養う。					
取組の具体的内容『キーワード 善く生きる』					
○毎月、学級から 2 名程度「善く生きる認定者」を決定する。					
○認定の観点は「ルールやきまりを率先して守っている」「人のために行動している」「目標や夢に向かって努力している」の 3 つ。					
○認定者の決定は学級児童の話し合いで行う。					
○全校朝会で表彰を行う。					
○児童玄関前の掲示板に、写真と認定理由を掲示する。					
取組の課題・創意工夫『キーワード 選出人数』					
○毎月、各学級から 2 名程度選出しているので、認定されない児童も多くいる。					
○児童玄関前に認定理由を掲示することで、他学年の児童も、どのような行動が「善く生きる」ことなのか考えることができる。					
取組の成果（効果）『キーワード 規範意識・自己肯定感』					
○各学級、学級活動の時間に、「善く生きている」と思う友達について話し合いを行っている。友達の頑張っていることを発表し合うことで、どのような行動が「善く生きる」ことなのか考えることができる。また、友達から認められることの喜びや、人の役に立っているという実感をもつことができる。					
○庄原小学校の 5 つの校風や月の児童会目標を意識して行動する児童が増えてきた。					
○学期に 1 度行っている生活アンケートの結果、「自分にはよいところがある」と回答した児童が、昨年度の 2 月が 76%、今年度の 7 月が 83%、11 月が 86%と向上している。					
今後の展開『キーワード ピアサポート』					
○今後も継続して「善く生きる認定」を実施していく。					
○児童会執行部が、縦割り班による「ドッジボール大会」を計画している。高学年が下級生の世話をすることで自分に自信がついたり、低学年は高学年にあこがれや感謝の気持ちをもったりすることを期待している。					
○さまざまな場面で、高学年が下の学年へ良い形で関わりがもてるように、ピア・サポートの考え方を積極的に取り入れていく。そのような行動も「善く生きる」生き方につながってくると考える。					
他校へのアドバイス『キーワード 評価』					
○認定の観点を「ルールやきまりを率先して守っている」「人のために行動している」「目標や夢に向かって努力している」としたことで、「やるべきことはやる、守るべきことは守る」児童が増えた。頑張りを認め、評価することが次の意欲へとつながっている。評価することの大切さを実感している。					

平成27年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	竹原市立竹原中学校	校長氏名	亀井 伸幸	生徒指導主事氏名	島 博明
-----	-----------	------	-------	----------	------

取組事例名 『進路実現に向けた授業向上のルーブリック指標の作成』

取組のねらい 『キーワード：クラス全員でめざす姿をつくる』

- 1年生の進路学習の一環として、授業を大切にすることが進路実現につながることを生徒に促し、生徒自身がルーブリックの作成を通して主体的によりよい授業をつくらうとする意欲を育成する。

取組の具体的内容 『キーワード：生徒が考える』

- 高校入試の調査書などの仕組みについて事前に学習を行い、1年生の成績も大切であることを認識させた。そこで評価表をもとに成績はテストの点数だけではなく、提出物や授業態度なども評価の対象であることを認識させた。
- 個人、クラスで向上に向けて取組めることとして授業態度に焦点を絞り、「自分たちが考える望ましい授業とは」について生徒が発表した。

取組の課題・創意工夫 『キーワード：成長4段階』

- 生徒が発表した望ましい授業について「SABC」の4段階に分類し、ルーブリックの作成に取り組んだ。
- 生徒自身が分類することで、より具体的に自分たちの姿を見つめさせ、またクラスとして授業に対する共通の価値観をもたせることをねらった。
- 各クラスで作成後に学年として統一したルーブリックを代表委員会を活用して作成した。また、作成したものを学年集会で代表委員が1年生に伝えた。

評価	重点チェック（話すについて）
S	立って相手を見て、大きな声ではっきりと、人の意見と関連させ発表する。 <u>全員発表。</u>
A	立って相手を見て、大きな声ではっきりと、発表する。 <u>いろんな人が発表している。</u>
B	立って、大きな声で、発表する。 <u>一部の人が発表。</u>
C	座ったまま、小さな声で、勝手に発表。 <u>発表しない。</u>

望ましい授業に向けての確認票(11月17日～)

取組の成果（効果） 『キーワード：客観的に』

- 授業態度の具体的な姿等を4段階に分類したルーブリックを作成したことで、生徒自身が自分やクラスの状況を自主的に客観的に評価できるようになった。また、ルーブリックをもとに、教員とともに授業を振り返ることができ、授業態度の向上に向けて課題や成果を共有して取り組むことができた。

【1Aの考える 授業を大切にする「SABC」成長4段階】

S めっちゃ最高!!(^^)!

- 先生のほうをむいて話を聞く。
- 常に集中できる。
- 静かで、話をしっかり聞く。
- 切り替えができる!
- 職員室で「さすが1A!」といわれるようにする。
- 丁寧なノート
- みんなが発表する!
- 全員が真剣に授業を受ける。
- 授業がどんどん進む。
- 笑う時には笑うけど集中する時には集中!
- 手を挙げる人が多く静かで楽しい授業。
- 姿勢もイイ!
- 必要な時以外しゃべらない。
- 一つ一つの授業を大切にしている。



A すごいね!(*~*~)

- 話はしていないし、ノートをとっている。
- 私語をしていない。
- 誰かが私語をしていたら注意する。
- 話は少しあるが、全員ではなく声かけがある。
- 切り替えができる。

授業は1日6時間
↓
週間で30時間
↓
か月に120時間
↓
1年は1年だったら?
1の前の1時間の授業を大切にすること。
これが進路実現の1歩の近道です。



B いいね!(。~)

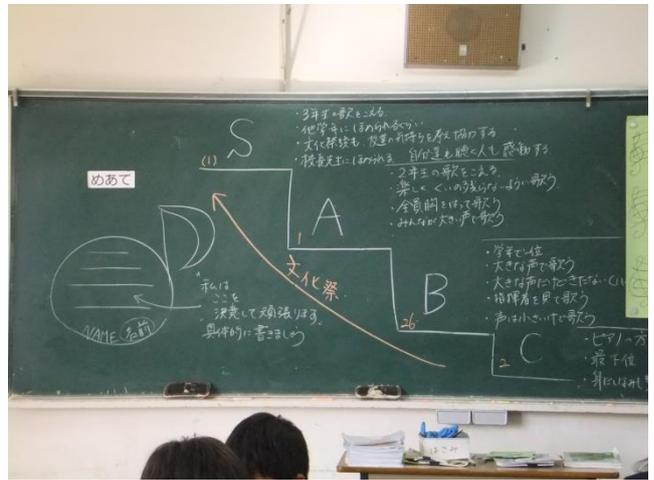
- 静かだが…イマイチ集中しきれていない。
- しゃべる人が少ない。少し私語が多くても切り替えはできる。
- 立ち歩きなし!

C よくない(;_~_)

- 私語が多い。
- 後ろを向いている。
- ノートをとらない。
- 人にちょっかいをだす。
- 先生の話を受けない。
- ペンで遊ぶ。
- 横座り。
- やる気なし。
- 注意されてもやめない。
- ふざける。
- 立ち歩く。
- うるさい
- 爆睡
- 先生やみんなから「1Aマジ授業態度悪い」といわれる。

今後の展開『キーワード:様々な場面で』

- ・ これまでも「文化祭での合唱コンクールに向けて」等、ルーブリックの作成に取り組んできた。今後は、さらに生徒が主体的に取り組めるように生徒会活動などでもルーブリックを作成し、生徒自身が学校をよりよくしようとする意識や行動を育成していきたい。
- ・ 2年生では、「時間を守る」について生活委員会、「挨拶」について代表委員会、「授業態度」について学習委員会が同様にルーブリックを作成していく予定である。



他校へのアドバイス『キーワード:自治的活動の充実』

- ・ 本校では、教員主導の指導から生徒の自治的活動による学校生活の向上に移行したいと取り組んでいます。本校生徒は、エネルギーがあることを生かし、生徒自らが考え、行動する場面を生徒とともに作り出して達成感、充実感を持たせていくことが学校の安定につながると考えています。